The Japan Lung Cancer Society

287

医師会の研究会を基盤とした肺がん検診

神奈川県医師会　中山脩郎
（神奈川県医師会肺がん検診研究班共同研究）

1.肺がん検診（読影）研究会の組織状況とその効果

a）神奈川県における地域医師会の肺がん検診（読影）会の組織状況

県下には18郡市医師会があり、政令都市医師会の横浜.川崎以外の12医師会に研究会が組織され、残る4医師会は組織規模が小さいため近隣医師会の研究会に参加している。横浜市医師会では14区の内12区医師会に研究会が組織された。川崎市医師会は準備中である。

研究会の指導医は専門医24名で大学病院、国・公立研究機関、病院の勤務医と開業医3名から成る。研究会の規模は会員数20名程度が多く少ないもので10名、多くて50名。

b）研究会参加会員のレントゲン撮影技術に及ぼす影響

県下の研究会毎に会員5名前後を無作為に抽出しそれぞれ2枚のフイルムの提出を求めアメリカのBureau of Radiogical Health により採点したところ研究会入会3年の間にその技術は向上し満点評価は30%前後に達する

2．研究会（読影会）を基盤とした早期がん発見の可能性と集検の実績

a）研究会を基盤に地域医師会が参加した自治体集団検診の実績（昭和57年度）

8医師会が9自治体の集団検診に参加し精検結果までフオローし得たものは7540名で4名の肺がん患者を発見した。各医師会の検診への参加状況は、一次検診間接フイルム読影参加は6医師会・8自治体。精検フイルム読影参加は7医師会・8自治体。企画、間接検診・精密検診フイルム読影等の全経過に参画しているのは3医師会・3自治体。医師会が参加している自治体での検診方法は間接2枚法は5自治体。初回のみ2枚撮影が1自治体。他は1枚法。経年読影を行つているのは6自治体。喀痰細胞診併用は6自治体である。

b）開業の場での肺がん早期発見の可能性

研究会参加会員の抽出調査による昭和58年12月の1ヶ月間の撮影症例は平均57.9例。うち40才以上は34.7例で撮影動機は呼吸器・循環器疾患等の診断のためである。それから推計すると肺がん研究会会員は40才以上の胸部X線写真を年間約400例前後撮影し県下の各研究会会員約350人余によりほぼ140,000例の検診が実質的に行われたことになる。なお昭和57年度神奈川県が実施した肺がん検診は18.727例であつた。

3．肺がん制圧のための教育広報活動

地域住民にこれを行つている医師会は昭和58年12月現在で8医師会、うち集検を実施しているのは6医師会である。

以上の現状に加えて今後の課題にも言及したい。

288

新しい腫瘍関連抗原 Sialosylated Lewis^x

長崎大学・第2内科
○河野　茂，中島　学，朝長昭光，植田保子，
斉藤　厚，原　耕平
ＵＣＬＡ外科
福島喜代康，須山尚史，広田正毅，
Paul I. Terasaki

近年，種々の癌及び白血病細胞に対するモノクローナル抗体が作られているが，そのうち Lacto-N-fucopentaose Ⅲ hapten に対する抗体の報告がある。この抗原構造は Le^x, SSEA-1あるいは My-1ともいわれ，preimplantation mouse embryo, mouse teratocarcinoma，ヒトの顆粒球にも存在するが，ヒトの腺癌に集積しており，腫瘍関連抗原と考えられている。

今回，われわれは胃癌組織でマウスを免疫し，Sialosylated Lewis^x に対するモノクローナル抗体を得た。この抗体（以下 CSLEX1 と略）は IgM 抗体で顆粒球以外の正常ヒト末血細胞には細胞障害性を示さなかった。検索した13種の白血病・リンパ腫細胞株のうち，anti Lewis^x 抗体と同様に，APL株 HL-60およびhistiocytic lymphoma 株 U-937と反応したが，T-ALL株（8402, CEM, MOLT-4, HPB-MLT), B-lymphoma株（Daudi, Ramos, Raji, Wel), common ＡＬＬ株（KM-3, Reh）および CML株（K-562）のいずれにも反応しなかった。また検索した34種の癌細胞株のうち，肺癌株4株（PC-1, PC-3, PC-9, QG-56），胃癌2株（KATO-Ⅲ, MKN-28），大腸癌株5株（C-1, MT609, COLO 205, WiDr, COLO 320），乳癌株（SKBR-2 Ⅲ, BT20），食道癌株1株（TE-1）と反応した。CSLEX1 抗体の認識する抗原は neuraminidase sensitive であり，種々の gangliosides に対する反応性より，次の糖鎖構造であることが明らかとなった。

$$\text{NeuAc}\alpha 2 \rightarrow 3\,\text{Gal}\beta 1 \rightarrow 4\,\text{GlcNAc}\beta 1 \rightarrow 3\,\text{Gal}\beta \rightarrow$$
$$\begin{array}{c} 3 \\ | \\ \text{Fuc}\alpha 1 \end{array}$$

この抗原構造は Lewis^x がシアル化したものであり，新しい腫瘍関連抗原である。詳細については福島らにより Cancer Research 誌に投稿中であるが，今回われわれの得た若干の病理学的所見を加えて報告する予定である。

NII-Electronic Library Service